中東は戦争を回避できるか

ンから

-分極化する国家、世代交代、環境制約から読み解く

著者独自の視角から読み解いた、二○二○年の中東論。「安定」に達したのか。そこに「秩序」はあるのか。今年一月の直接戦争の危機を経て、中東はどのような昨年を通して高まった米・イランの緊張と代理戦争の進行、

東京大学教授

池内 恵

『イスラーム国の衝撃』など。 『現代アラブの社会思想』『シーア派とスに『現代アラブの社会思想』『シーア派とスに『現代アラブの社会思想』『シーア派とス技術研究センター准教授、東京大学先端科学究文化センター准教授、東京大学先端科学学。アジア経済研究和、東京大学先端科学学。アジア経済研究科博士課程単位取得退学のアジア経済研究科博士課程単位取得退いけうち さとし 二〇〇一年東京大学大いけうち さとし 二〇〇一年東京大学大いけうち

事態の収束を図ったといえそうです。

事態の収束を図ったといえそうです。

事態の収束を図ったといえそうです。

事態の収束を図ったといえそうです。

事態の収束を図ったといえそうです。

事態の収束を図ったといえそうです。

います。
ここに至る近年の米・イラン間のエスカレーションの経については、すでに多くの報道や分析がなされています。
たのように変容してきたかを読み解き、そのなかで今回のどのように変容してきたかを読み解き、そのなかで今回のどのように変容してきたかを読み解き、そのなかで今回のを機をどのように位置付けられるか、分析を試みたいと思た機をどのように位置付けられるか、分析を試みたいと思たがある。

可

の地位を手にできます。

中東において「国家性」のある国、 ない国

るいはもっと簡単にいうと「国家が強い国」と「国家が弱 乱の中で明らかになりました。中東の諸国家が「国家性 にある国と、ない国があることが、「アラブの春」後の混 とは、中東地域における国家および国家間関係が大きく変 ですが、中東の場合、国家といってもその内実がそれなり わったことです。国際政治の基本的単位は原則として国家 い国」へと急速に分化していった、と言えるでしょう。 (stateness)」を十分に備えた国と、備えていない国、あ 「アラブの春」から一○年弱が経過して明確になったこ

留保をつけた上ですが、これらの要件を備えている国が、 要件の一つとして完璧というわけではないでしょうし、す もちろん、国家性が備わっている国々にしても、これらの 近代国家として存立してきました。中東の場合は、これら の多くを最低限備えているだけで、地域の中では「大国」「強 べてを取り揃えているとも限らない。「ある程度」という 体性や統合、法制度の整備、官僚制や軍などの行政制度 国家性の主たる要件は、求心力のある中央政府、国民の 国境の管理など、近代国家の基本的な要素です。

> しかしいずれ復活してくるかもしれません。 力が低下しており、「大国」と言えるかどうか曖昧ですが、 二〇世紀後半には中東の大国でしたが、近年は国力や影響 家性が強く、「強国」といってよいでしょう。エジプトは ですが、アラブ首長国連邦(UAE)やカタールなどは国 ビア、イスラエルなどでしょう。また国の規模こそ小さい 大国として挙げられるのは、イラン、トルコ、サウジアラ 入したり、影響力を行使する能力を持ちます。中東で地域 して統治できるだけでなく、 これらの地域大国・強国は、自国の領域内の主権を確保 周辺国や地域の紛争などに介

(イスラム国)など宗教的イデオロギーに導かれて集結 族や地域アイデンティティなど土着紐帯に結ばれた政治集 ては必ずしもそうではありません。では誰が秩序を担って ア、レバノン、イエメン、リビアなどがこれに当たります。 の要件を部分的に欠いているところがある。イラク、 国々は中央政府が十分に機能せず、近代の主権国家として る勢力、クルド人などの民族主義勢力など、国家とは別の いるのか。それはさまざまな非国家主体 ただこれらの国がまったく無秩序かというと、実態とし 他方で、国家性の弱い国が多く出てきました。これらの シーア派など宗派に基づく紐帯でまとまる勢力、 ---例えば、

配し、その地域の人たちにとっては、ある種の「正当性」境内のある一部、あるいは国境をまたぐ地域を実効的に支家の国境内の全域を統治できるわけではありませんが、国ところにアイデンティティを持つ集団です。彼らはある国

があると見られている。

地域大国・強国と、弱い国家およびその内部の諸集団とされます。ISはその極端な事例といえるでしょう。アイデンティティを異にする別の集団からは、脅威と認識このような集団は、当然のことながら国家(中央政府)や、

の重層的な絡み合いが、中東情勢を複雑化しています。

第一に、地域大国間の利害が大きく異なり、不断に調整や 等二に、ここで、ある地域大国が他の地域大国・強国を 第二に、ここで、ある地域大国が他の地域大国・強国を 第二に、ここで、ある地域大国が他の地域大国・強国を 第二に、ここで、ある地域大国が他の地域大国・強国を を駕し、自らに有利な地域秩序を作り上げるかというと、 を駕し、自らに有利な地域秩序を作り上げるかというと、 を選し、自らに有利な地域秩序を作り上げるかというと、 を選し、自らに有利な地域秩序を作り上げるかというと、

ある、というのが厄介なところです。そしてその「拒否権」域で著しく影響力を増大させるのを拒否する程度の能力は第三に、それぞれの地域大国は、競合する国や勢力が地

米国やロシアなど域外大国の介入を引き込むことで地歩をの諸集団です。そして非国家主体も、地域大国、さらにはを行使する際に利用するのが、脆弱国家の中の非国家主体

中東の新たな国際秩序を考える際の理念型

固めてゆくのです。

下ラブの春」後の一○年弱で、「国家性がある国・ない「アラブの春」後の一○年弱で、「国家性がある国で、どのような方向性が考えられるのでしょうか。主権国で、どのような方向性が考えられるのでしょうか。主権国が形成されうるのでしょうか。そもそも秩序の担い手は誰がるか、それとも修正を加えるか、事実上存在してしまってるか、それとも修正を加えるか、事実上存在してしまっている非国家主体をどう扱うか、地域大国の前提となる前近いる非国家主体をどう扱うか、地域大国の前提となる前近いる非国家主体をどう扱うか、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすか、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすか、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすか、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすか、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすが、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすが、という基準から、三つの代的な秩序をどの程度生かすが、という基準から、三つの代的な秩序をといる。

中東国際秩序の基調になった動きの延長線上にあります。に代表される、第一次世界大戦期に始まり、近代における変えていく、という方向性です。これは「サイクス=ピコ協定」できであり、そのために各国の国内秩序や国際関係を作りた既存の支配的な国際秩序に、中東諸国も統合されていく第一に、主権国家とそれに基づく国際システムに根差し

第二の方向性として、主権国家体制の原則は維持しつつ、第二の方向性として、主権国家体制の原則は維持しつつ、では国様の考え方は見えにいったの高い州になるといった考え方は、これまでもしたな主権国家をつくることも許す、ということになります。たな主権国家をつくることも許す、ということになります。たな主権国家をつくることも許す、ということになります。のえば、イラクをスンナ派、シーア派、クルド人の主導する地域に分けて、それぞれが独立国あるいは連邦を構成する独立性の高い州になるといった考え方は、これまでもしばしば浮上してきました。シリアやイエメン、リビアにつばしば浮上してきました。シリアやイエメン、リビアにつばしば浮上してきました。シリアやイエメン、リビアにつばしば浮上してきました。シリアやイエメン、リビアにつばしば浮上してきました。シリアやイエメン、リビアについても同様の考え方は見え隠れしています。

頃に、半ば冗談というか頭の体操として、「中東の新しいに存在した中東地域の歴史・伝統に根ざした帝国時代の版的な秩序を作る、あるいはトルコがオスマン帝国時代の版的な秩序を作る、あるいはトルコがオスマン帝国時代の版的な秩序を作る、あるいはトルコがオスマン帝国時代の版のを復活させる、といった状況です。この場合、近代においる秩序を作る、あるいはトルコがオスマン帝国時代の版のを復活させる、といった状況です。を端に言えば、イランが国のを復活させる、といった状況です。を端に言えば、イランが国のを復活させる、といっか頭の体操として、「中東の新しいな秩序に存在した中東地域の歴史・伝統に根ざした。「中東の新しいな秩序に存在した。」というか頭の体操として、「中東の新しいな秩序に存在した。」というか頭の体操として、「中東の新しいなります。」というか頭の体操として、「中東の新しいなります。」というないのでは、

ここで試みに検討した三つの方向性は、いわば理念型でか、それを図示した各種の地図が出回りました。取り込んで近代の主権国家の国境線を引き直せばどうなる地図はこうなる」と、旧来の帝国勢力などが非国家主体を

想定するしかありません。 起こらなかったので、今後もそう簡単には起こり得ないとしても、実際にそのような大規模な変革は一世紀かけても家とその社会を主権国家の原則に無理やり適合させようとす。第一の理念型に合わせようとして、中東の既存の諸国

に採用する主体はないでしょう。 第二の理念型では、有力な非国家主体などにあわせて主 の新争を経なければ合意が成り立つとは考え難い。そのよ うな紛争を起こしてでも現在の紛争・不安定を解消すると の紛争を経なければ合意が成り立つとは考え難い。そのよ うな紛争を起こしてでも現在の紛争・不安定を解消すると いうのは本末転倒で、避けなければなりませんし、積極的 いうのは本末転倒で、避けなければなりませんし、積極的 いうのは本末転倒で、避けなければなりませんし、積極的

乏しい諸国家が引き起こす諸問題を解消しようというもの権国家とは別種の秩序原理によって、現在の「国家性」のいはイスラム教のカリフ制といった、近代の国民国家や主第三の理念型では、ペルシア帝国やオスマン帝国、ある

です。

選択的オスマン帝国?

たています。 状的にそう見える行動をとりがちな地域大国がある、と考 ば、現時点ではそうとは言い切れない、ただし部分的・選 代的秩序原理の復興が、今後の中東の方向性なのかといえ ではこの三番目の理念型、帝国やカリフ制といった前近

採用しています。 採用しています。 は、トルコの動きに端的に表れています。ト にのあたりは、トルコの動きに端的に表れています。 にのあたりは、トルコの動きに端的に表れています。ト にのあたりは、トルコの動きに端的に表れています。ト

も前近代の帝国の時代の版図を取り戻すかのようなイメーものに挑戦することは、まずありません。同時に、あたかとにメリットを感じているので、主権国家体制の原則その家性」が相対的に強く、主権国家としての安定性を持つこ中東の地域大国として頭角を現すトルコやイランは「国

きる現状が、中東の地域大国にとっては望ましいものと弱い隣国に介入する。このダブル・スタンダードを駆使でジを内外に醸し出して、好きな時に好きな場所で、国家が

なっています。

もちろんそれはトルコにとって重荷ではありますが、世界 る。つまり「選択的オスマン帝国」のような状況が生じていて、 備えた主権国家として、トルコは自国の国境内を安定させ 厄介ごとを引き受ける意思は見られません。「国家性」を 活させて国境線を無効化し、シリア内戦にまつわる巨大な ともできる。トルコの政府にも国民にも、本当に帝国を復 る難民を食い止めていると恩を売って、外交資源にするこ に貢献していると誇ることができるし、ヨーロッパに流れ りません。難民を善意で受け入れているという立場です。 国家の国境外で発生した他国の内戦であり、何ら責任はあ しかし現在のトルコ共和国にとっては、シリア内戦は主権 われ、命を落としていくことの責任を問われたでしょう。 アラブ人やクルド人など異民族が、生まれ育った土地を追 たらどうなっていたでしょう。その場合、帝国の版図内で、 発生していますが、トルコが今もオスマン帝国だったとし つつ、必要に応じて都合のよい時に国境を越えて介入でき 例えば、シリア内戦の結果、大量の難民・国内避難民が

でしょう。
その現状がそれほど不都合ではないので、維持しようとする

対照的な世代交代のリスク

です。
です。
です。
です。
つは「世代交代」、もう一つは「環境制約」
に着目して、内側の力学を見てみましょう。ここで主要な
国々にかなり共通して影響を及ぼしている要因を二つ挙げ
国々にかなり共通して影響を及ぼしている要因を二つ挙げ
こみましょう。一つは「世代交代」、もう一つは「環境制約」
です。

かけ離れた性格の指導者が王位を受け継ぐことになります。ラビアの政治経済の激変があり、全く異なる育ち方をした、年齢が大きく離れているだけではなく、その間にはサウジア

性に由来する、対照的な世代交代の問題に直面しています。性に由来する、対照的な世代交代の問題に直面しています。世代交代といえば、「アラブの春」の時点で最もしょう。世代交代といえば、「アラブの春」の時点で最もしょう。世代交代といえば、「アラブの春」の時点で最もしょう。世代交代といえば、「アラブの春」の時点で最もまず中東地域で進む世代交代の影響について考えてみままず中東地域で進む世代交代の影響について考えてみままず中東地域で進む世代交代の影響について考えてみままが

ンマド・ビン・サルマーン皇太子(MbS)は三四歳です。とマド・ビン・サルマーン皇太子(MbS)は三四歳です。石の実子で、他の後継候補の王子たちが次々と排除されての座にあるわけですが、現在のサルマン国王が八四歳。王の座にあるわけですが、現在のサルマン国王が八四歳。は特定の部族が権力を掌握し、血縁で継承する家産制的なは特定の部族が権力を掌握し、血縁で継承する家産制的な

家産制的な政治体制では、政治指導者の育ちや気質は政策に大きな影響を持ちかねません。通常の近代国家における指導者の交代よりも、オーナー企業の代替わりを想定した方がいいのかもしれません。世代間の断絶と言ってもいい乖離が指導層の中にあり、国内政治に大きな摩擦が生じることは想像に難くありません。汚職追放を名目にした王ることは想像に難くありません。汚職追放を名目にした王なことは想像に難くありません。時代間の断絶と言ってもいかョギ事件の大スキャンダルなどに加え、最近も、すでに失脚させている前皇太子など有力な王子を一時的に拘束するなど、内外に大きな波紋をもたらし不安を呼び覚ます事合など、内外に大きな波紋をもたらし不安を呼び覚ます事

多くの湾岸産油国でそうであるように、サウジアラビア

急速に脆くなっているのではないかと考えています。そもそも困難です。革命派の高齢化により、政権の中枢がは一回限りの現象で、それ自体を制度化し持続させるのは権力の中枢を占め、政治指導層が高齢化しています。革命権力の中枢を占め、政治指導層が高齢化しています。革命権の高齢であることに加え、イスラム革命から四一年が経過し、王政打倒とその後の革命諸派の権力闘争やイラン・歳の高齢であることに加え、イスラム革命から四一年が経

ŋ

路線転換は困難です。

ここに、トランプ政権による前例のない厳しい経済制裁がかかっています。二〇一八年五月に米国のポンペオ国務がかかっています。二〇一八年五月に米国のポンペオ国務はほとんどないでしょう。もしイランが拒めば、経済制裁はほとんどないでしょう。もしイランが拒めば、経済制裁はほとんどないでしょう。もしイランが拒めば、経済制裁はほとんどないでしょう。もしイランが拒めば、経済制裁を中心とした最大限の圧力がかかり続ける。しかもトランプ政権は、あと四年続くかもしれません。私の認識では、トランプ政権はこのやり方に自信を持っており、一方でイランの体制側もその効果を痛感しているのではないでしょうか。

二司令官殺害は、イランが付近の親米勢力に対して有利に今年一月の米軍による革命防衛隊コッズ部隊のソレイマ

い込まれたイランの指導層は強硬派の純化路線を取ってお選挙で改革派・開放派の立候補を大幅に排除するなど、追ち目がない現実を白日の下に晒しました。二月の国会議員ち目がない現実を白日の下に晒しました。二月の国会議員ち目がない現実を白日の下に晒しました。二月の国会議員代理戦争を戦い、親米陣営を屈服させ、米の経済制裁を緩代理戦争を戦い、親米陣営を屈服させ、米の経済制裁を緩

しかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロしかしここにきて、全く別種の脅威、すなわち新型コロ

湾岸諸国の脆弱性により代理戦争継続は困難に

(GCC)を構成するペルシア湾岸産油国に顕著です。目の要素は、環境制約です。これは特に湾岸協力会議世代交代に加えて、中東に変化をもたらしそうな二つ

たと言えます。

境制約からくる脆弱性です。 二〇一九年半ばに、米・イラン間の緊張は極限に達しま に九月一四日のサウジの石油施設への攻撃は大きな波紋を けびました。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 呼びました。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 呼びました。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 呼びました。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 に九月一四日のサウジの石油施設への攻撃は大きな波紋を にカラン陣営による、サ ウジや UAE など親米陣営のインフラ施設への攻撃、特 にカラン陣営による、サ でびました。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 に対した。ここで露わになったのは、GCC 諸国の環 にカラン陣営による、サ ウジや UAE など親米陣営とイラン陣営に属するペルシア湾岸 にカラン陣営による、サ

調施設によって乗り越えて、現在の文明的環境を作り上げ過去五〇年ほどの間に、海水淡水化施設とクーラーなど空いう環境によるものです。GCC諸国はこの環境制約を、暑の気候で飲料水の天然の供給がきわめて乏しい砂漠とていたことは、歴史的にはほとんどありません。それは酷GCC諸国に大規模な建造物が立ち並ぶ都市が成立し

域における帰結でしょう。 飲料水と空調施設を維持するインフラは容易に破壊されま飲料水と空調施設を維持するインフラは容易に破壊されまなったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地はイランと戦争ができないと明らかになってしまい、米側はイランと戦争ができないと明らかになってしまい、米側はイランと戦争ができないと明らかになってしまい、米側はイランと戦争ができないと明らかになってしまい、米側はイランと戦争ができないと明らかになってしまり、戦争となれば国外に脱出するからさまになったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、二〇一九年を通じた米・イラン緊張の湾岸地なったのが、一方に対している。

言える状態です。 る秩序ができたとは言えないのですが、「奇妙な安定」と を置きかけていると私は見ています。それは何か調和のあ 国は、米・イラン対立の中での対イラン代理戦争から距離 その結果、一九年後半から二○年にかけての GCC 諸

要があるでしょう。● 最後に、新型コロナウイルスの感染拡大は、高齢化し 最後に、新型コロナウイルスの感染拡大は、高齢化し 最後に、新型コロナウイルスの感染拡大は、高齢化し 最後に、新型コロナウイルスの感染拡大は、高齢化し